

ごあいさつ

東京2020オリンピック・パラリンピック大会をこの夏に控え、本番に向け様々な分野での最終調整が行われています。一方で、昨年末から世界各地で「新型コロナウイルス」が猛威を振るい、各国の政治・経済・文化など多方面に影響を与え、未だ終息の方向性が見出せない状況です。

有史以来、たくさんの医学者・科学者・生物学者らによって、見えない敵「ウイルス」による発症のメカニズムが解明され、人類は様々な感染症を克服してきました。

今も多くの医学者・科学者らが日々たゆまぬ研究を重ねる中であって、2019年ノーベル化学賞を受賞された旭化成名誉フェローの吉野彰さんは、子供たちに向けたメッセージの中で、小学校4年生のとき担任の先生から勧められた「ロウソクの科学」が科学やものづくりに興味を抱くきっかけになったと語っています。

本協会では、子供たちのこの興味関心を大切にしながら、学校の工夫だけではその実現を委ねることが困難になってきている昨今の現状を踏まえ、きっかけづくりの学習活動の場として博学連携を推進するとともに、文化の伝承・伝播という視点から地域回想法を中心とした博福連携も進めています。

このような取組の基盤となるのは、やはり「人」という力であり、職員一人一人が自分の持てる力を最大限に活かす努力を、そしてそれぞれの施設では調和と同時に全体のレベルアップを目指して全員参加型の取組を推進していくことが重要です。

本研究は、学術及び科学技術、文化及び芸術の振興を図り、豊かな人間性と創造性を備えた人材の育成と文化の香り豊かなまちづくりに寄与することを目的に、平成24年度「公益財団法人宮崎文化振興協会研究事業」としてスタートし8年目を迎えました。また、理事会でのご助言もいただき昨年9月にはISSN（国際標準逐次刊行物番号）を取得し国立国会図書館にも当協会の刊行物として収録されています。

研究テーマは、いずれも各職員が日ごろの業務において見出した課題や問題点について、その対応策や改善策を検討したもので、今後の業務や運営に大変有益な内容となっています。このような職員一人一人の改革・改善に取り組む姿勢・意識が本協会の設置目的につながっていくものであると確信しています。

最後に、今回、日常業務で大変忙しい中、研究に取り組んだ職員のさらなる精進のためにも本報告書をご一読いただき、研究事業に対するご意見をいただければ幸いです。

令和2年3月20日

公益財団法人 宮崎文化振興協会
理事長 小 泉 英 一

目次

1. 研究論文

経営部門

《大淀川学習館》

- 実態に基づいた運営方法の見直しについての研究
～ボトムアップ型組織への組織再構築を通して～ . . . 1
- 指定管理更新にともなう事業改善方法に関する研究
～社会的アプローチを通して～ . . . 6

歴史・文化部門

《みやざき歴史文化館》

- 極楽寺自治会所蔵『涅槃図』の図様について . . . 10

自然科学部門

《大淀川学習館》

- 夜間における大淀川学習館周辺の昆虫調査
～学習館の夜間イベント拡充を図るために～ . . . 16

施設管理部門

《宮崎科学技術館》

- 展示物の有効活用をはかり魅力を最大限に伝える手立て
～展示順路の在り方を通して～ . . . 22
- より多様な方に対応できる展示解説の手法について . . . 26
- ダジック・アースを活用した小規模企画展「ミニアポロ展」の開催 . . . 32

《大淀川学習館》	
収蔵庫の機能回復と標本管理方法の確立	・・・ 38
《宮崎市民プラザ》	
ホールにおける避難誘導に関する考察	・・・ 44

催事等実施報告部門

《宮崎科学技術館》	
科学の世界へグッと引き込む事業展開を目指して	・・・ 50
《大淀川学習館》	
「絵本の読み聞かせ音楽会」の継続的な実施と充実へ向けて	・・・ 55

2. 審査会講評	・・・ 62
-----------------	--------

3. 先行研究一覧	・・・ 69
------------------	--------

4. 参考	・・・ 82
--------------	--------

公益財団法人宮崎文化振興協会研究事業実施要綱